

福島大学 農学支援基金

ご協力の
 お願い



福島大学公式マスコットキャラクター
 めばえちゃん

～ 食・農・産業の振興と次世代育成のために ～

目的

福島大学農学支援基金は、食農学類(仮称)の設置及び運営に対して総合的に支援を行い、本学の使命を達成することを目的に設立いたしました。

実施事業

基金を活用して次の事業を実施いたします。

- ✦ 建物及び施設設備の整備に関する事業
- ✦ 教育研究支援に関する事業
- ✦ 社会連携推進に関する事業
- ✦ 環境整備及び運営に関する事業

その他基金の目的達成に必要な事業を行います。

学長挨拶

東日本大震災と原発事故によって甚大な被害を被った福島の農業は、その再生・復興に向けた取組みが粘り強く行われています。農業王国・福島は、米の全袋検査等、農作物の徹底した安全検査が行われていますが、風評被害にさらされています。また、農業従事者の高齢化や減少という日本農業共通の課題もあります。

このような中、本学は福島の農業の再生・復興をめざし、食の安全・安心をはじめ日本農業の将来を担う人材を育成する組織として「食農学類(仮称)」の設置準備を進めています。今般、「福島大学農学支援基金」を立ち上げることとなりましたので、福島の農業の再生・復興に賛同いただける個人、法人の皆様の温かいご支援を心よりお願い申し上げます。



なかい かつみ
 福島大学長 中井 勝己

ご寄附の方法

①郵便振替 ②銀行振込 ③クレジットカード決済 ④コンビニ決済
 などの中からお選びいただけます。詳しくは基金ホームページをご覧ください。

感謝の気持ち

ご寄附いただいた全ての方に感謝の意を込めまして、基金ホームページ及び福島大学農学支援基金寄附者顕彰銘板にご芳名を掲載させていただきます。ただし、「お名前公表を希望しない」旨のご連絡をいただいた方については、掲載いたしません。

個人情報の取扱い

個人情報保護法に基づき、お預かりした個人情報は、本基金に関連する業務以外には一切使用いたしません。

詳細は、福島大学 農学支援基金ホームページをご覧ください。
<http://www.fukushima-u.ac.jp/bokin/nougakushienkikin/index.html>

福島大学農学支援基金

検索



Fchallenge
Faculty of Agricultural and Food Sciences

エフ・チャレンジ
 「福島大学農学系教育研究組織設置準備室広報誌」

発行/平成30年1月1日 企画編集/福島大学農学系教育研究組織設置準備室 〒960-1296 福島市金谷川1番地
 TEL. 024-548-8212 FAX. 024-548-3180 E-mail. nogaku-j@adv.fukushima-u.ac.jp

Fchallenge

[エフ・チャレンジ]

Faculty of Agricultural and Food Sciences

食農学類(仮称)の“いま”を伝える広報誌

CONTENTS

- 特別対談 | 生源寺 眞一 × 松尾 雅彦
- 学びの宝箱 | 食と農をつなぐ! 「農学専門教育」
- 結い鍵 | 情報通信技術 (ICT) と農業、
菌床シイタケ普及から地域活性化へ
- 室長室から | メッセージ 青柳 斉
- 学類概要 | 取得できる資格・卒業後の進路
入試概要



「ふくしま・かわまた米コンテスト」での試食準備の様子

福島大学 農学群
食農学類
 (仮称)
 2019年4月
 [設置構想中]

TALK

対×談

「福島だから買う」と言われるものを作る気概を持つ

オンリーワンに磨きを掛け、将来にわたって輝き続ける元気な農村を増やしたい

生源寺 松尾さんは「日本で最も美しい村」連合の活動やスマート・テロワールの本を出版されたりと、現役を退かれた後もアクティブにご活躍されていますね。

松尾 私が副会長をしているNPO法人「日本で最も美しい村」連合は、全国の小さくても輝くオンリーワンを持つ農村が自らの町や村に誇りを持って自立し、将来にわたって美しい地域であり続ける運動で、もともとはフランス発祥の運動なんです。農村は、どの国でも人口が減っています。これは農作業が機械化されたからです。でも、何か価値のあるオンリーワンを持って

いるところは人口減少が止まり、やがて伸び始めます。価値のあるオンリーワンに磨きが掛り、その後、産業や観光が発展するからです。ヨーロッパの農村では、この運動をきっかけに元気を取り戻した美しい村がたくさんありま

す。これを日本の農村にも広めたい。その一心で全国を飛び回っています。本当はもっとのんびりやるつもりでしたが……(笑)。

日本の食料需要や国土利用を見据え、福島ならではの産地形成を

生源寺 2019年春、食農学類(仮称)が新設されますが、松尾さんの企業経営や農村振興のご経験から、福島の農業の課題や可能性をお聞かせください。

松尾 福島はなんと言っても「原発事故」の問題がありますからね。他の産地と競争するには大きなハンディキャップがあります。そこで私からの提案です。まずは、地域の住民(県民)が地産地消に今まで以上に真剣に取り組むことです。地域の農家の生産したものを消費者が購入するという「地産地消」を脱皮して、消費需要のあるものを栽培し加工して買ってもらう努力をすることです。「地産地消」に転換することです。米・野菜・果樹はこれ以上の国内需要が期待できない。一方、小麦や大豆、乳製品、肉や飼料は輸入頼み。これらは全部、畑から生まれるものです。

長野から東北にかけては火山が連なっています。そこはなだ

福島大学農学系教育研究組織設置準備室長

生源寺 眞一

1951年、愛知県生まれ。専門は農業経済学。農林水産省研究員、東京大学教授、名古屋大学教授などを経て、2017年4月から福島大学教授。これまでに東京大学農学部部長、日本フードシステム学会会長、農村計画学会会長、日本農業経営学会会長、日本農業経済学会会長、日本学術会議会員を務める。現在、生協総合研究所理事長、地域農政未来塾塾長など。近年の著書に「農学が世界を救う!!」(岩波ジュニア新書、共編著)、「日本農業の真実」(ちくま新書)、「農業と人間」(岩波現代全書)などがある。

らかで水はけがよく、畑作物や放牧にも適しています。阿武隈山地に隔々まで集落があったのは、歴史的に自給と地域循環が成立していたからです。福島県は、日本が追求すべき新しい農業のモデルとなる可能性があるのです。地道な作業ではありますが、耕畜連携で堆肥を戻してやると、地力が向上し、作物の質・量が高まってゆきます。美味しいものは、消費者が一番知っています。「福島の農産物の安全性が理解され、どこよりも美味しい」となれば、よそからでも頭を下げて買いに来ようになります。売りに行けば買いたたかれる。よそから来れば値がついて、観光にもなります。原発事故を受けたからこそ「福島だから買う」と言われるものを作る気概を持たねばならないのです。

生源寺 原発事故を逆手に取るということですね。

松尾 私も出身地の広島で原爆に遭いました。しかし、広島は平和都市として立派に発展を遂げています。起こってしまった

今回は、ポテトチップスなどでお馴染みのカルビー株式会社の元社長と食農学類(仮称)の新設に向けて準備を進める室長の対談を掲載します。福島の農業を再生させるためのアドバイスから女性の社会進出、「食」と「農」を学ぶ学生へのエールまで盛りだくさんです。

松尾 雅彦

カルビー株式会社相談役

1941年、広島県生まれ。カルビー株式会社相談役、山形大学客員教授、長野県 食の「地産地消」アドバイザー、NPO法人「日本で最も美しい村」連合副会長、一般社団法人スマート・テロワール協会会長、慶應義塾大学法学部卒。1967年カルビー株式会社入社。1992年同社社長就任。2006年同社相談役。2008年第41回食品産業功労賞 受賞。2016年第73回中国文化賞受賞。著書に「スマート・テロワール 農村消滅論からの大転換」芸芸出版社。2017年度より福島大学食農学類(仮称)設置協力会議、顧問。

た現実からは逃げられません。そこからいかに復活をするかを考えるしかありません。

生源寺 震災復興へのご意見を頂けませんか？

松尾 インフラを元に戻すだけでは復興は望めません。社会の変化を見据えて、産業をつくり直さないと農山漁村の再生はできません。これは被災地だけでなく、地方全般に言えることです。

東北に限らず日本の漁村の衰退が深刻です。都市で魚の需要は旺盛ですが、多くは切り身の需要で加工されて冷凍輸入されています。日本の漁港ではその加工ができないのです。大きな三つの要因が重なっています。漁師がとってくる魚は切り身の加工しにくい形の小さなものがほとんどです。加工は開きにして日干しにするくらいです。資源管理の問題です。福島の海では漁ができないので、魚形は大きくなっています。二つ目の問題は市場流通です。漁港でせて、築地でまたセリます。鮮度

は甘くなります。かっぱえびせんて魚のことも結構詳しいのですよ。三つ目の問題は、漁村の人の美食革命が進まないことです。都市で進んでいるおいしさ追求のトレンドに乗れません。農村も同じですが、産地では規格外のものが30%近くとれます。加工場があれば加工残渣が排出されます。これらが畜産事業や養殖事業で飼料となって活かされます。規格外品の活躍の場があれば産地の住民は良質品を産地価格で楽しむことになります。産地で美味しい文化が形成できるので「地理的表示法」が活躍する、つまり産地がブランドになるのです。魚の成長を守り、とれた魚はできるだけ早く冷凍して需要に応じて360日稼働する加工場で加工できれば、働く人の報酬も3倍になります。通年稼働する加工場の女性の収入が漁村の一番の宝になります。

女性ならではの感性と、「粘り強さ」は研究・開発だけでなく、社会の変革にも役立つはず

生源寺 近年は、農学部を希望する女子学生が増える傾向にあります。これから食農学類(仮称)で学びたいという女子学生を含めた若者に期待することがあればお聞かせください。

松尾 女性にはある種の「粘り強さ」、「情熱」があると思うのです。これは研究・開発だけでなく、社会の変革にとっても重要で、女性ならではの感性と粘り強さに期待したいですね。そして福島の、日本の「農村」を元気にしてほしい。今はダイバーシティーなどと言って、女性の活躍の場を広げようという動きもあるようですが、実際はまだ少ないのが現状です。特に農村は日本中どこに行っても男性ばかり。組織の幹部はみんな男性です。この状況をどうすれば打破できるか。とにかく女性が男社会を壊さないと。未だに続く男社会は弊害ばかりが目立つようになりましたからね。

生源寺 耳が痛いお話です。確かにそうして、今は面接にしても女子の方がプレゼンテーションは上手いし、コミュニケーション能力はあるし、男子よりはるかに上だという話をよく聞きます。社会のいろんな場面で女性が活躍できる場が増えれば、日本はもっと良い社会になっていくと私も思います。本日は貴重なご意見を賜り、誠にありがとうございました。

食品科学 コース



農学系教育研究組織設置準備室
副室長
経済経営学類 教授
こやま りょうた
小山 良太

学歴・職歴 ●北海道大学大学院農学研究科博士課程修了博士(農学)。福島大学経済経営学類准教授を経て、2014年より同教授。
専門 ●農業経済学、協同組合学、地域経済学

安全性認証を超えて ～GAPの考え方を踏まえた新たな産地形成～

農作物の安全・安心を認証する枠組みにGAP (Good Agricultural Practice) があります。生産の現場で、食品の安全確保、環境の保全、労働安全などの観点から、安全に農業生産を実施するための管理ポイントを整理し、それを記録、検証して、より良い農業生産を行うものです。これが農作物の安全性の認証に繋がるため、農作物の輸出、東京オリンピックでの利用を見据えて、GAPが注目されています。

福島では原子力災害を受けて、食の安心・安全に資する意識と対策が格段に広がりました。米の全量全袋検査は、3年連続で基準値超過した米はゼロが続いています。それは生産者による放射能の学習、農地の放射能計測・土壌診断、生産段階からの低減対策などが功を奏しているからです。福島でもGAPが注目されていますが、農業者や農業生産法人が個々にGAP認証を受けるだけでなく、GAPの考え方を踏まえつつ、地域全体で質の高い農作物を作れるようにすることが新しい産地形成に不可欠です。福島の原子力災害の経験は、新たな産地形成の糧になると確信しています。



農協の組合員に対する技術講習会



農協と生協の協同組合間連携による果樹園の放射能計測

私たちの環境を守り、 農や暮らしを支える森林科学

生産環境学コースでは、植物の生長をささえる農地と森林の環境を知り、その利用について学びます。そのなかで森林科学分野では、植物の生育基盤である土壌、森林の育成や計画的な利用、野生動物の管理、そして里山における人と自然の関係について学んでいきます。

日本における「林業」はかつて多くの人が働く大きな産業でしたが、木材の貿易自由化や燃料革命のために生産量が激減し、木材自給率は20%を下回るほど衰退しました。ところが、戦後の森林保全が功を奏して森林資源が充実し、ここ数年自給率が毎年向上し、産業として再び活気をもつようになってきています。

今や林業は単なる木材の供給だけでなく、山菜やキノコ、リクリエーションなど森のさまざまな恵みを活用する「森林業」としての発展が求められています。自然の仕組みをよく理解し、森林の持つ能力をうまく引き出すことに興味のある人に学んでもらいたいと思います。



土壌の環境を評価する水分計の設置



里山の春

生産環境学 コース



農学系教育研究組織設置準備室
アドバイザー
横浜国立大学 教授
かねこのぶひろ
金子 信博

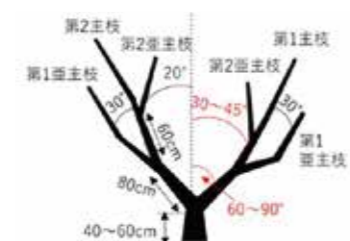
所属 ●横浜国立大学大学院環境情報研究院
学歴・職歴 ●京都大学大学院農学研究科博士課程修了博士(農学)。島根大学農学部・生物資源科学部勤務、横浜国立大学環境科学センター勤務を経て、2016年より福島大学農学系教育研究組織設置準備室アドバイザーに就任。
専門 ●森林生態学、土壌生態学

学 | び | の | 宝 | 箱

樹形を科学する 『樹の形を2.5次元で理解しよう!』

果樹栽培の初心者にとって、栽培指導書というのは、樹の形を理解する上で重要な資料です。現在の指導書は2次元で書かれていますが、作物は3次元の存在です。当然、3次元の樹を2次元で表現すると齟齬を生じます(図1)。熟練者は感覚で理解できるものですが、初心者にとっては理解しづらい物です。これは、指導する側(普及・指導員)される側(農家)の両者ともにいえることです。そこで、近年発達目覚ましいドローン撮影や画像の3D再構築といった技術の出番です。タブレット端末などを用いて自分の手で、ぐるぐると角度を変えながら、2.5次元の世界で理想の樹形について、議論することができます。

このような、新規技術開発について、現在取り組みを進めている最中です。



(図1) 農業書でよく見る樹形図。枝の配置が分かりづらい。角度が意味不明(特に赤字)。



(図2) 樹ごと、園地ごとにタブレット上でぐるぐる回したり、角度を変えながら見る

農業生産学 コース



農学系教育研究組織設置準備室
准教授
たかだ だいすけ
高田 大輔

学歴・職歴 ●岡山大学自然科学研究科博士後期課程。2007年より東京大学附属農場に勤務。2016年より現職。
専門 ●果樹園芸学(桃)

食と農をつなぐ! 「農学専門教育」

農業経済・経営学から 農業・農学・地域を支える

- 1 農学と農業経済・経営学**
農学の祖といわれるドイツのA・D・テアは、農学の基礎を農業経営学と栽培学としました。しかしその後の農学の歴史を見ると、次第に専門分化して、出発点の考え方を失う事態になってきました。そこで福島大学食農学類では、原点に立ち返り、農業経営学を作物・栽培学とならび全体の基礎とし、農学の体系性を見失わないよう、教育・研究を進めていくこととしました。
- 2 地域と農学**
アメリカの農学系大学では、「ウィスコンシン・アイデア」といわれる“The boundaries of campus are the boundaries of the state” (大学の境界は州の境界) という考えで、地域と大学が密接に結びついています。福島大学食農学類でも、福島県全域を大学キャンパスとする「農学実践型教育」をめざしており、その全ての地域で農業経済・経営学を基礎とする勉強ができるプログラムを組んでいます。農業経営学コースで学び、君の力で日本と世界の農業を変えていく生き方を選択してませんか。



集落点検ワークショップ



住民参加の放射線計測

農業経営学 コース



経済学研究科
ふくしま未来食・農教育プログラム
特任教授
むろふち ゆういち
守友 裕一

学歴・職歴 ●北海道大学大学院農学研究科博士課程修了農学博士。福島大学経済学部、宇都宮大学農学部、東京農工大学大学院連合農学研究科勤務を経て、2014年より現職。宇都宮大学名誉教授。
専門 ●農山村経済論、内発的発展論

結い鍵

つながるチカラ。
ふくしまの新しい未来のカたち。



情報通信技術 (ICT) と農業

スマート農業に向かって～ロボット・自動操舵(直進) 田植機・画像処理～

10月10日に国産測位衛星「みちびき」の打ち上げが成功し、4機体制となりました。これまでのGPSでは数mの誤差がありましたが、今後は数cmまで誤差が小さくなります。

これらを活用した機器の開発が農業分野でも進んでおり、「トラクタ」「田植機」「無人ヘリ」などが実用化されています。例えば、「トラクタ」では、ほ場データを入力することで無人作業が可能となり、写真(提供:県農業総合センター)のように、監視役の1名のオペレータで複数台の操作が可能となりました。

「田植機」では、自動操舵で運転手が手を放しても真っ直ぐに植えることができます。このため、田植作業の途中で苗補給するために同乗していた補助作業者が不要になります。さらに、田植時に水が深くとも田植が可能のため、水田から稲わらや肥料・除草剤の成分が含まれた水を放水しなくともよくなります。例えば、この技術を猪苗代湖周辺の水田で利用すれば、水質汚濁を防ぐことが可能です。また「無人ヘリ」は、1筆の水田を細かく分割し、水稻の生育状況を画像処理して、生育に応じて追肥量を加減できます。

このように、ICTを利用した農業機械の実用化は大規模な農家からの期待も大きく、農業に夢を与えてくれます。



画像処理装置を積んだ無人ヘリ



自動操舵田植機(頭上にGPSのアンテナがある)

■ 福島県農業総合センター作物園芸部

稲作科長
よしだ なおみ
吉田 直史



被災地から新たな試み

福島県浜通りや避難地域では、大震災や原発事故の影響により農業者の帰還が遅れており、農業の担い手不足が深刻な問題となっています。福島県では、当地域の営農再開を支援するため、ロボット技術等の先進的な技術を導入する農林水産分野イノベーション・プロジェクトに取り組んでいます。ロボットトラクタなどのICT技術を導入した農業機械が普及することで、少ない担い手で大面積を管理することができると期待しています。

■ 福島大学

農学系教育研究組織設置準備室
ふじさわ ひろみ
藤澤 弥栄



若者に夢のある農業を!

福島県内では営農再開地区を中心に100ha超の水田を所有する経営が増えています。

省力化のため、そして後継者が夢を持てるような農業にするため、ICTを使った農業機械の開発は重要です。食農学類には、画像処理やスマート農業に関する教員が着任予定です。開学後は、農家と一緒にICTに取り組んでいきたいと思っています。



菌床シイタケ普及から地域活性化へ

農林複合の周年経営モデルの構築

里山林の資源を活用して栄養価の高い食品を生み出すことができるキノコの生産は、本県の重要な産業で、地域資源を保全しながら雇用を創出していけるという意味で特別な意義をもつものです。

本学類ではJA全農福島との共同研究を進め、本県産菌床シイタケの生産と流通の拡大をめざしています。とくに、生産に必要な設備と資材の普及や、品質の改善と安定化、消費地と地元向けのマーケティングが課題となります。

各地域での生産体制づくりも重要です。経営のモデル地域の一つに、郡山日和田町の(有)「アグリプロ八丁目」があります。水田約30ヘクタール、菌床約6万5,000株(写真)の生産規模の同法人では、水稻と菌床シイタケの周年複合経営の確立に取り組んでいます。

寒冷地の南会津町では、「田島菌床きのこ生産振興会」が、近隣の雑木林の間伐材や残材を燃料とするボイラーを導入し、冬季のハウス加温により、品質の高い「薪で育てた菌床しいたけ」の生産を実現し、夏季の農業との組み合わせによる寒冷地型の周年複合経営モデルの構築をめざしています。



福島県内の農家が丹念に栽培し、JA全農郡山PSで選荷・パッケージされ新鮮な状態で出荷される肉厚の「愛情しいたけ」



2017年9月の郡山産潤ワイナリーでのイベントに合わせて福島大学で試作した「愛情しいたけと季節野菜と南相馬産菜種油のアヒージョ」

■ 全国農業協同組合連合会福島県本部(JA全農福島) 郡山営農事業所 園芸センター・郡山PS

センター長
かの やすのり
菅野 康徳



菌床シイタケは 大きな可能性を秘めている

当センターでは、福島県内の菌床シイタケの生産を振興していくために、これまで担ってきた選果・商品パッケージに加え、簡易空調付きのパイプハウスの普及や、菌床玉の一元製造と供給など、新たなチャレンジを開始しています。今後、浜通りの営農再開や、会津をはじめ全県の周年複合経営の確立などの課題に向け、「菌床シイタケ」が大いに役に立つと考えています。福島大学食農学類との協力で取り組んでいけることを楽しみにしています。

■ 福島大学

農学系教育研究組織設置準備室
はやし くん べい
林 薫平



キノコでの 周年複合経営モデルの構築を

本学類では、「農林資源経済」という科目を設定しています。地域ごとに資源の循環をつくりながら、周年で仕事がつながるような仕組みを研究し、実践していくことがテーマです。資源循環と、周年雇用の両面で、キノコ類の栽培は、とても重要なものと位置付けています。

ところで、現在、県内各地でワインづくりが進められていますが、キノコの魅力を引き出すような加工や調理の方法を新たに編み出していくことも、楽しい課題と考えています。

MESSAGE [室長室から]



食農学類(仮称)の設置申請に向けて

「準備室」では、目下、今年3月末の設置申請に向けて、食農学類(仮称)のカリキュラムや入試制度、建物・設備、農場等々の整備に取り組んでいます。専任教員に関しても、昨年4月末からの公募人事により、採用を進めてきました。

食農学類(仮称)の教育研究は、総勢38名の専任教員で担当されます。専門分野別の配置数では、各教育コースに対応して、食品科学分野10名、農業生産学分野10名、生産環境学分野10名、農業経営学分野8名に分かれます。これまで、第1次から第4次までの公募人事が完了し、昨年末時点で既存教員及び学内移籍者をも含めて38名全員が確定しています。

その顔ぶれをみると、世代的には40才代が多いものの、若い研究者の30才代からベテラン大学教員の60才代まで幅広く分布しています。現在の所属先では大学関係機関が多数ですが、国・県の試験・研究機関も少なくありません。少数ですが、食品会社の研究・開発部門に所属している方もいます。また、震災関連で福島県内を調査・研究のフィールドにしている方や福島県内に実家のある方も少なからずいます。それぞれ、各専門分野において野心的、ユニークな研究活動や実践的な開発研究に意欲的に取り組んでいます。また、学生教育や地域貢献活動に対しても情熱的な

志を持った方々ばかりです。これらの教員候補者は、これからの福島県内の農業・食品産業の発展や関係専門家・技術者、リーダーの人材育成にとって大きな戦力になるはず

です。現在、確定した専任教員候補者の中で開学に向けたカリキュラムの内容や授業方法、実験・実習設備の整備に関して、詳しい検討の打ち合わせも進めています。なお、新学類の専任教員としての採用は、手続き的には、設置審の教員適格審査を経て確定します。それまでは、あくまでも専任教員「候補者」としての扱いです。従って、現時点ではまだ実名をもって公表することはできません。設置審の審査結果が出る今年8月末頃には、確定した専任教員全員の素顔を披露できるかと思えます。

農学系教育研究組織設置準備室

副室長 あお やぎ 青柳 ひとし 齊

1954年生まれ、本籍・山形県新庄市、農学博士。京都大学大学院博士課程修了後、新潟大学助手、助教授、教授を経て現職。主な著書に『中国農村合作社の改革』(単著)、『中国コメ産業の構造と変化』(編著)などがある。



取得できる(目指す)資格・卒業後の進路

農学群 食農学類 (仮称)	コース	取得できる(目指す)資格	卒業後の進路	学位 名称 学士 (農学)
	食品科学コース	●フーズベジタリアスト ●食の6次産業化プロデューサー ●食品衛生管理者(任用資格) ●教員免許(高校一種 農業) など	【共通】 ●食品メーカー ●飲料メーカー ●酒造メーカー ●製菓メーカー ●農機メーカー ●農業資材メーカー ●医薬品メーカー ●化粧品メーカー ●物流企業 ●総合商社 ●外食産業 ●農業生産法人 ●JA等農業関連団体 ●個人事業(農業従事者等を含む) ●教育委員会(教員) ●国・自治体 ●大学院 など	
農業生産学コース	●HACCP管理者 ●食の6次産業化プロデューサー ●教員免許(高校一種 農業) など	●HACCP管理者 ●食の6次産業化プロデューサー ●教員免許(高校一種 農業) など		
生産環境学コース	●測量士補 ●危険物取扱者 ●教員免許(高校一種 農業) など			
農業経営学コース	●HACCP管理者 ●食の6次産業化プロデューサー ●教員免許(高校一種 農業) など			

※内容は予定のものであり変更する場合があります。

入試概要

学群	学類	入学定員	募集人数				推薦入試
			一般入試80名程度		AO入試20名程度		
			前期日程	後期日程	地域社会貢献枠	実践教育経験枠	
農学群	食農学類(仮称)	100名程度	60名程度	20名程度	概ね10名程度	概ね10名程度	0名

個別学力試験科目	前期日程	物基・物、化基・化、生基・生、数学(数Ⅰ・数Ⅱ・数A・数B)、英語から2科目
	後期日程	数学(数Ⅰ・数Ⅱ・数A・数B)、英語から1科目、面接

AO入試 地域社会貢献枠の受験資格

福島県内の高等学校等の卒業生、もしくは卒業見込生で、福島県内の農業、農業関連産業、食品関連産業、農林水産行政機関等の次世代の担い手として活躍する強い意欲を持つ者。福島県外の高等学校等の卒業生、もしくは卒業見込生で、福島県内もしくは出身県内の農業、農業関連産業、食品関連産業、農林水産行政機関等で次世代の担い手として活躍する強い意欲を持つ者。

AO入試 実践教育経験枠の受験資格

高等学校専門学科(農業、工業、商業、情報、水産、家庭、看護、福祉)、総合学科若しくは中等教育学校専門学科(同じ)を卒業見込みの者又は高等専門学校の第3学年を修了見込みの者で、農学を学ぶ強い意欲を持つ者。

AO入試 2枠共通受験資格 英語検定準2級以上または数学技能検定2級以上の資格取得を条件付け

一般入試 個別学力試験科目前期日程 理科2科目で受験可。個別学力試験後期日程 英語で受験可。

※内容は予定のものであり変更する場合があります。

詳しくは、こちらまで

福島大学 食農学類

検索

<http://www.agri.fukushima-u.ac.jp/>